

イメージして楽しむ縄文



道南歴史文化振興財団学芸員 坪井睦美さん

縄文遺跡の発掘作業に30年以上携わり、専業主婦から学芸員に転身した坪井さんが伝える縄文の魅力。



縄文早期終わり頃(約6500年前)、垣ノ島遺跡から発掘された足形付土版。子供の形見として作られ、親が亡くなった際いっしょに埋葬されたと考えられています。

縄文時代の遺物には、興味を惹かれるものが数多くあります。たとえば、垣ノ島遺跡から見つかった土版。これには生まれたばかりの幼児の足形が付付けられていました。親が形見として持っていたと考えられるこの遺物からは現代人と変わらない子どもを思う親の気持ちが届きます。また縄文と聞いて真っ先に思い浮かぶであろう縄文土器。これには名前の通り縄目の文様が施されています。縄文時代初期の土器は形がシンプルですが文様は複雑、晩期になると形が複雑ですが文様はシンプルになる傾向があります。なぜこのような変遷を辿ったのか、そもそも何故縄目を付けたのか。その理由はまだ分かっていません。時代の流行なのか、は



長年に渡り携わってきた発掘作業を通じて「縄文の魅力を一時期でも多くの人に伝えたい」と専業主婦から学芸員に転身。現在、垣ノ島遺跡ガイドツアーの解説を行い、訪れる方に縄文の魅力を伝え続けています。

たまた別の意味があるのか。その理由を考えるとわくわくしませんか？わかっている事・わかっていない事、等しく存在する縄文には想像する楽しさがあるのではないのでしょうか。皆さん、縄文に触れて思いを馳せてみませんか？



坪井さんは縄文土器の文様に絞を塗る際の様子も研究。実際に絞を使ってのペルリンでも披露しました。

今回、世界文化遺産に登録された遺跡以外にも、函館市内には、亀田中野・東山・陣川・桔梗など約320ヶ所の縄文遺跡が存在します。この機会に他の縄文遺跡にも興味を持ってほしいです。